



豊田中学校 学校だより
豊田の里

平成 29 年 6 月 30 日
 第 6 号
 発行 豊田中学校

6月 23 日(金)磐田市立豊田中学校 創立 70 周年記念講演



校長式辞



「東京 2020 教育プログラム認証」授与

村松教育長祝辞

芥川同窓会長祝辞

講演内容

演題「挑戦を続けることで広がる世界 ～パラリンピックから世界を見つめて～」

講師 新野正仁氏 アシスタント 杉浦直氏



<<新野正仁氏>> 今日は、自分の生きてきた経験をもとにした話をします。自分は今は全盲ですが、もともとは健常者でした。中学卒業後、千葉県の魚屋に住み込みで働きました。20歳の時、自分の不注意による居眠り運転で対向車と正面衝突をしました。フロントガラスが眼球に刺さり、全身血まみれで病院に運ばれました。ガラスは取り除くことができましたが、失明し、これからの人生を障害をもって生きていかなければならないことになりました。

両親がいる磐田にやってきて、浜松の盲学校に行くことにしました。寮で生活し、寮から盲学校に通いました。目が見えないことにより、いかに移動が難しいかを感じる日々でした。盲学校に3年いて、マッサージの国家試験に合格し、仕事に就きました。見えなくてもできる仕事があることに安心しました。警察や病院様々な人が心配してくれ、助けられて生きていることを感じました。

新野正仁 氏

さて、ここからマラソンの話になるのですが、まずは盲人マラソンとはどのように走るのか、映像を見てください。

【北京パラリンピックフルマラソン代表選手として出場することになったときの取材DVDの上映】

自分が出場した2008年北京パラリンピックから障害のランク分けが変わり、全盲と弱視の両方の人たちが一緒の区分で参加することになりました。フルマラソンは3時間を切らないと代表選手にはなれません。盲人マラソンについて理解し、興味のある人は伴走者として協力してください。

盲人マラソン協会は千葉県の房総半島で2泊3日の合宿を行います。まさに自分との戦いです。今日のような話をさせてもらうことが、自分の力となっています。



<<杉浦直氏>> 目をつぶって隣の人の肩に手を置いてください。「（間）手がどの位置から来るのか考え、不安だったことと思います。目が見えなくなるといういろいろな不安があります。新野さんと一緒にいることで考えたことをお伝えします。



相手の立場に立って考えないといけません。当たり前に見えている景色、何の情報をどのように伝えたらよいか、例えば目が見えない人が走っていて急に上り坂に入るところがあれば、とてもびっくりすると思います。自分がその立場

ならどうなのかなと思っいつも走っています。みなさんも学校生活において、他人の立場に立って考えることをお勧めします。

はじめはボランティアのつもりでした。走っているときは新野さんを安全にというつもりで考えていました。ただ、初めて盲人マラソン協会の合宿に参加したとき、オリンピックのメダリストの話の話を聞きました。「伴走も競技の1つだから、ボランティアではなく一緒に頑張っゴールを目指している。」という話でした。マラソンの3時間は非常に長いです。膝、お腹が痛くなります。でも、新野さんは決して弱音を吐かない。走れる機会を大切にしています。お互い励まし合いながらゴールに向かっていきます。新野さんという視覚障害者を見たとき、走ることに日常生活がたいへんだらうと思っていました。ただ、実際には障害を持つ方も普通に生活ができます。どうしても障害に目が行きがちですが、その方々もできることはたくさんあることに気付きました。自分にとっての課題は「伝えること」です。例えば筑前煮。自分にはにんじんが入っている煮物としか説明ができませんでした。走ることを以外のことも頑張っいきたいです。



<<新野正仁氏>>今日の講演でも杉浦さんはたいへんいいサポートをしてくれました。いいパートナーだどつくづく感謝しています。4月のながふじマラソンでは、豊田中学校の吹奏楽部が演奏してくれ、力になりました。今後まだ、あきらめないでこつこつと頑張っり、代表選手として残るよう頑張っりたいと思います。本日はありがとうございました。

（生徒の感想より）

新野さんのようにどんなことがあっても、日々挑戦していきたい。また、杉浦さんがおっしゃっていた「その人のできないところを見るのではなく、できることもあることを知っほしい」という言葉が心に大きく残りました。日々の生活でもその人の悪いところを見るのではなく、いい所を見つっていきたいと思いました。今日、この話を聞っけて本当によかったです。（1年）

私は「相手のことを考えること」と「一生懸命になり、あきらめない」ということが分かりました。新野さんは両方の目が見えないということがあるにもかかわらず、志というものをもち、挑戦していることがすごいことだと感じました。挑戦をすることの大切さ、挑戦する人にしか分からないことなどを知ることができたのでよかったです。（2年）

目が見えないなんて私には想像ができません。でも、そんな状況になっても相手のことを考え、そのあとも新しい職業を見っけ、すごいことを乗り越えてきた方だということが分かりました。目が見えない中、走るなんてすごく怖いことにチャレンジしている。そして、それを楽しんでいる。私がそうなら、できないと思います。私も今はつらいけど、頑張って乗り越えないとな、そう思いました。（3年）